



てんけんじゃく 天険若夷

2026年3月17日

発行責任者 菅野 拓哉

JR貨物労組九州地本青年部

2026年 3月 2日

日本貨物鉄道株式会社
 総務部経理課 大副 新 毅
 九州支社長 松尾 正博 殿

日本貨物鉄道労働組合
 九州地本青年部
 青年部長 菅野 拓哉

2026年度新賃金要求に関する要請文

JR貨物労組は2月18日に「2026年度新賃金申し入れ」と「諸要求改善に向けた申し入れ」を行ない、これから本部一本社間での団体交渉を進めていく。

昨年10月以降、人命が危ぶまれる労働災害や車両衝突事故が立て続けに発生している。1月27日には、南長岡駅構内において21歳の青年部員が入換中の貨車から転落し、両足を切断するという大変痛ましい労働災害が発生した。二度とこのような事故が発生しないよう、背後要因も含めた「真の原因究明」を行ない、再発防止策を立てなければならぬ。現在、12月20日に発生した札幌支店での事故を受けた緊急対策として、北九州支店や福岡支店の入換時の作業方の変更が行われているが、作業が複雑になるなど十分な対策とは言えない。また、昨年8月7日に発生した北九州支店構内における出区中の機関車による衝突・脱線する事故では、過去の同種事故発生時からハード対策を求めているが、運転士によるソフト対策が取られるのみである。これ以上、労働災害によって青年部員が傷つくことが無いよう、対策立案の際は職場の声を必ず取り込み、職場環境・作業実施に合った再発防止策を労働して構築していくことを強く求める。

しかし、いくら安全な職場環境を整備しても、要員が揃わなければ全く意味がない。今年度は14名の若年退職が発生している。各職場の要員状況は一向に改善の兆しが見えず、将来展望が見いだせない。駅操車の要員不足が深刻であり、「自分が出ない職場が回らないから」と3〜4歳連続勤務に就いたり、当日呼び出しに協力したりしている。こうした状況下で、自然災害や輸送障害により大幅に遅れた列車に対応している職場の青年部員は、先述のような事故・事象に遭うリスクを抱えつつ、休憩時間も短く、長時間の通勤によって対応している。職場の青年部員は「自分の時間」が確保できず、身体的にも精神的にも疲弊している。要員確保は会社の責任である。新規採用を継続的に行なっていくとともに、技術を着実に身に付け、輸送の安定と収入確保に尽力している在職中の青年部員が、これからも「JR貨物で働きたい」と思えるよう、奮闘に見合う資金を支払うべきだ。離職防止と新規確保で要員を安定させるためには、今こそ大規模な賃上げが急務である。

物価上昇に歯止めがかからず、ここ数年で生活必需品の値段は1.5倍以上上がっている。将来を担う青年部員が安心とゆとり、そして希望や将来性を持って生活していくためにも、回答指定日にはベースアップ一律18.000円の定額実施と、諸要求の完全実施を強く要請する。

記

1. ベースアップ一律18.000円を実施されたい。
2. 諸要求項目について完全実施されたい。

以上

2026JR総連春闘 支社要請行動実施

主に以下のことについて訴えてきました。

・**物価上昇により、生活が厳しく、万全な体調・精神状態で業務に従事できない。この状態が続いていくと事故や事象、労働災害にも繋がってしまう。特に日勤職場や家庭を持っている組合員は厳しい状況となっている。また、色々なことを我慢して生活をしていることから仕事に対するモチベーションも保てない。初任給調整手当などがあつたところで若手組合員の退職は止まらないし、それ以外の組合員の退職も止まらない。我々は今を生き延びて、今の状況が悪いからこそこの状況を変えたいのだ。**

・**帰省旅費が独身者で150km、単身赴任者で50kmなのはなぜ100kmの差があるのか？**

・**住宅補助について家賃相場が変わっていることを認識されていますか。また数百mしか変わらないのに都市手当の対象外の地域があること知っていますか。**

・**職場で働く組合員は度重なる遅延や作業変更などを必死に可能な限り定時運行に努めている。そういった職場で働く組合員の努力を見てほしい！そして金額で応えて欲しい**



九州地青は、3月2日(月)15時より、九州支社にて2026JR総連春闘勝利におけて「支社要請行動」を実施しました。

3月18日の回答指定日まで

徹底的に青年部員の声を訴えていこう！！